

脆弱性を処理する Cisco Unified CallManager メモリ

severity	アドバイザリーID : cisco-sa-20050712-ccm	CVE-2005-2241
	初公開日 : 2005-07-12 15:00	CVE-2005-2242
	バージョン 1.1 : Final	CVE-2005-2243
	回避策 : Yes	CVE-2005-2244
	Cisco バグ ID :	

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco Unified CallManager (CCM) はデバイスを、Voice over IP (VoIP) ゲートウェイ処理する IP 電話、メディアおよびマルチメディアアプリケーションのようなパケットテレフォニーネットワーク デバイスにエンタープライズテレフォニーの特徴や機能を拡張する Cisco IP Telephony ソリューションのソフトウェアベースの呼出処理コンポーネントです。Cisco CallManager 3.3 およびそれ以前、4.0、および 4.1 は割り込まれているサービスという結果に終るかもしれないリブートする実行されるサービス拒否 (DoS) 不正侵入に脆弱、メモリリークおよびメモリ不良サーバまたは任意のコードです。

Cisco はこれらの脆弱性に対処するためにフリーソフトを使用できるようにしました。

このアドバイザリーは <http://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20050712-ccm> で掲示されます。

該当製品

修正済みソフトウェア

脆弱性を含む製品は次のとおりです。

- Cisco CallManager 3.2 およびそれ以前
- Cisco CallManager 3.3、先のバージョンより 3.3(5)
- Cisco Unified CallManager 4.0、先のバージョン 4.0(2a)SR2b より
- Cisco Unified CallManager 4.1、先のバージョン 4.1(3)SR1 より

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

他のシスコ製品においてこのアドバイザリの影響を受けるものは、現在確認されていません。

改訂履歴

リビジョン 1.1	2005-July-18	Workaround セクションは Cisco Call Manager にアクセスを制限する例を追加しました。
リビジョン 1.0	2005-July-12	初回公開リリース

利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。